

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IUGG分科会

更新日 2012/9/28

(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際測地学及び地球物理学連合

(欧文) International Union of Geodesy and Geophysics

(略称) IUGG

日本学術会議加入年(西暦) 1949 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) 執行委員会(Executive Committee)

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Harsh Gupta	なし	Michael Sideris	Alik Ismail-Zadeh
(国)	インド	なし	カナダ	ドイツ

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

4年に一度開催される学術総会期間中に、信認状をもつ各国代表各1名による選挙で選出される。

加入国・地域の数 69 ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列挙)

米国、英国、ドイツ、日本、フランス、中国、ロシア、カナダ、イタリア、オーストラリア

国際学術団体のホームページURL

<http://www.iugg.org>

国際学術団体の年間運営経費

595,600 USD

日本の分担予定額[事務局で記入]

2,916千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催 /協賛の有無
2011	第25回国際測地学・ 地球物理学連合学 術総会	オーストラリア、メル ボルン	3600	582	無
2010	第6回火山都市国際 会議	スペイン、プエルト・ デラ・クルス	860	60	無
2009	IAMAS/IAPSO/IACS 合同総会(MOCA-09)	カナダ、モントリオール	1340	140	無
2009	第35回IASPEI学術 総会	南ア共和国、ケープ タウン	350	28	無
2008	第7回アジア地震学 会総会	日本、つくば市	822	592	有

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2011	評議会(Council)	オーストラリア、メル ボルン市	48	今脇資郎	2
2011	執行委員会	オーストラリア、メル ボルン市	12	中田節也	0
2010	執行委員会	オーストラリア、メル ボルン市	16	中田節也	0
2008	執行委員会	ドイツ、カールスルー エ市	16	中田節也	0
2007	評議会(Council)	イタリア、ペルージャ 市	56	竹内邦良	3

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

- (1) Yearbook (年1回)
- (2) Annual Report (年1回)
- (3) The IUGG Electronic Journal (月1回)

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;">国際機関等の提唱で行った活動</p> <p>ユネスコ等の提唱による、国際惑星地球年計画に参加。ICSUや世界社会科学会議等の提唱による、災害リスクの統合研究計画および国際デジタル地球年に参加。IPCC-WG1第4次評価書作成に関与。</p>
<p style="text-align: center;">国際機関等への提言等</p> <p>温室効果ガスの排出削減を各国政府に要請。エアロゾルの降雨への影響評価に基づいた、国際的行動計画の策定をWMOに提言。自然災害リスク軽減への取組みを各国際学術団体に要請。各国宇宙開発当局に、重力・地磁気衛星観測の継続的推進を要請(2011年7月総会決議)。</p>
<p style="text-align: center;">国際事業等への参加・実施等</p> <p>ユネスコや国際地質科学連合と共同で、2007年-2009年を国際惑星地球年に指定し、地球科学の知識と情報を世界中で利用してもらうための国際的プログラムに取り組んだ。ICSUの進めるプロジェクトENHANS(極端な自然災害とその社会的影響)に参加し、主導的役割を担った。</p>
<p style="text-align: center;">全世界的/地域的研究課題への取組み</p> <p>火山に隣接する都市への災害軽減に取り組む、第5回火山都市国際会議を2007年11月に島原市で開催した。気候変動や水文環境変動を、源流域から海まで統合的に扱う国際会議を、2008年10月に京都で開催した。2010年4月のエイヤフィヨットル火山噴火の噴煙に関する声明を発し、WMOおよびICAO(国際民間航空機関)の運営に貢献した。</p>
<p style="text-align: center;">発展途上国への対応</p> <p>IUGG GeoRisk Commissionの活動の一環として、ICSUアフリカ事務所の災害研究立ち上げに協力している。またIRDRの科学委員会の活動に参加している。ICSUのプロジェクト“Better Internet Connectivity for Research and Education Institutions in Africa - eGYAfrica”を主導している。</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>地球環境問題や大規模な防災・減災が重要課題である。ICSUのプログラム「災害リスク統合研究(IRDR)」の実行には、我が国のIUGG関連学協会の関心が高い。また、国連国際惑星地球年が2007-2009年に設定されるなど、国際社会の関心も高い。</p>
--

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
ビューロー・メンバー	佐竹健治	2011	2015
執行委員	中田節也	2007	2011
財務委員	末広 潔	2003	2011
執行委員	今脇資郎	2003	2007
執行委員	竹内邦良	2001	2005

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUGG分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

なし

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本地球惑星科学 連合	7000	http://www.jpogu.org
日本地震学会	2000	http://www.soc.nii.ac.jp/ssj/
日本気象学会	3747	http://www.metsoc.or.jp/
日本海洋学会	2000	http://www.kaiyo-gakkai.jp/main/
地球電磁気・地球 惑星圏学会	700	http://www.sgepss.org/sgepss/

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名	IUGG分科会
所属分野別委員会	地球惑星科学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
大久保修平	なし	中田節也	中村尚

会員数	連携会員数	特任連携会員数
1	5	0

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

- 1) 2013年に開催されるIUGG傘下の学協会の学術総会への対応
- 2) 国際学術協力の推進

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/9/22	メールによる持ち回り審議 1) サウジアラビアのIUGG加盟について、国内委員会としての賛否決定
2011/12/26	1) 委員長・幹事の選出、オブザーバーの承認 2) 小委員会の設置について 3) 今期の活動方針について

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

協力学術団体である、日本地球惑星科学連合のHPを通じて広報を行うとともに、関連学協会の学会誌・ニュースレターを通じて、広報活動を行っている。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

協力学術団体である日本地球惑星科学連合のHP利用や、本分科会傘下の小委員会の開催について関連学協会の支援(地方開催時の会議室使用料負担等)を受けている。逆に、本分科会及び傘下の小委員会は、国際的学術動向の情報を学協会に報告している。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

特段の指摘事項や留意事項はなかった。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

- (1) 第22期に入って1回目の会合を2011年12月に開くとともに、随時、重要事項(国際組織の出版物の原稿作成等)についてメールを活用した審議を活発に行っている。
- (2) 協力団体の日本地球惑星科学連合と連携して国際学協会等の活動に関する広報も活発に行っている。